

第10期末 (2024年11月20日)

基準価額	9,630円
純資産総額	74億円
騰落率	△2.5%
分配金	0円

商品内容、運用状況などについてのお問い合わせ先

コールセンター **0120-762-506**

(9:00～17:00 土日祝日・年末年始を除く)

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>

お客様の口座内容に関するご照会は、  
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。



NISSAY  
ASSET MANAGEMENT

ニッセイアセットマネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-6

# <購入・換金手数料なし> ニッセイ国内債券 インデックスファンド

追加型投信／国内／債券／インデックス型

## 運用報告書(全体版)

作成対象期間:2023年11月21日～2024年11月20日

第10期(決算日 2024年11月20日)

### 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて「<購入・換金手数料なし>ニッセイ国内債券インデックスファンド」は、このたび第10期の決算を行いました。

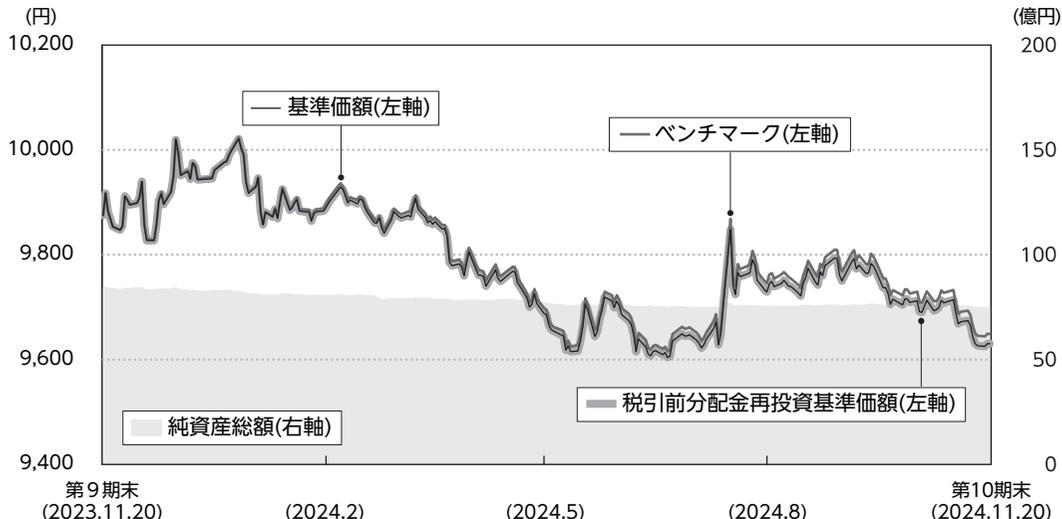
当ファンドは、「ニッセイ国内債券インデックススマザーファンド」受益証券への投資を通じて、実質的に国内の公社債に投資することにより、NOMURA-BPI 総合の動きに連動する投資成果を目標に運用を行いました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後ともいっそうのご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

# 運用経過

2023年11月21日～2024年11月20日

## 基準価額等の推移



第10期首	9,875円	既払分配金	0円
第10期末	9,630円	騰落率(分配金再投資ベース)	△2.5%

(注1) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものであり、前期末の基準価額にあわせて再指数化しています。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) ベンチマークはNOMURA-BPI総合で、前期末の基準価額にあわせて再指数化しています。なおベンチマークの詳細につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

## ■基準価額の主な変動要因

### <上昇要因>

- ・ 期初から2023年12月末にかけて、米金利の低下基調が強まる中、国内金利も低下(債券価格は上昇)基調となったことに加え、12月の日銀金融政策決定会合で緩和的な金融政策が維持されたことで金利が低下基調となったこと
- ・ 2024年7月末から8月上旬にかけて、7月末の日銀金融政策決定会合において追加利上げが決定されたことをきっかけに急激な円高と株式市場の下落が進行し金利が急低下したこと

### <下落要因>

- ・ 2024年4月から5月末にかけて、植田日銀総裁の追加利上げに前向きな発言を受けて金利が上昇基調となったこと
- ・ 10月以降、堅調な米雇用統計を受けて米金利が上昇したことや衆院選における与党の過半数割れから財政拡張への警戒感が強まったことなどから金利が上昇基調となったこと

## 1万口当たりの費用明細

項目	第10期		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	13円	0.132%	$\text{信託報酬} = \text{期中の平均基準価額} \times \text{信託報酬率} \times \frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は9,781円です。
(投信会社)	( 5)	(0.055)	ファンドの運用、法定書類等の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	( 5)	(0.055)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受託会社)	( 2)	(0.022)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
その他費用	0	0.001	その他費用 = 期中のその他費用 / 期中の平均受益権口数
(監査費用)	( 0)	(0.001)	公募投資信託は、外部の監査法人等によるファンドの会計監査が義務付けられているため、当該監査にかかる監査法人等に支払う費用
(その他)	( 0)	(0.000)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 信託事務の諸費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用</li> <li>・ 借入金の利息：受託会社等から一時的に資金を借り入れた場合（立替金も含む）に発生する利息</li> </ul>
合計	13	0.133	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含まず。

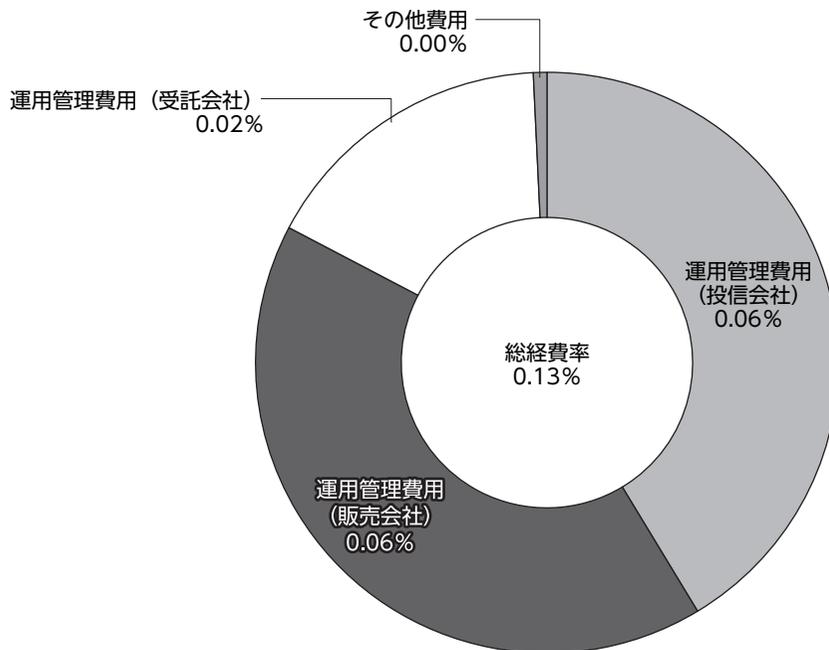
(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(参考情報)

■ 総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.13%**です。



(注1) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 国内債券市況



(注) プルームバーグのデータを使用しています。

当期の10年国債金利は期を通じて見ると上昇しました。

期初以降、日銀のマイナス金利解除時期への思惑などから金利は上下しつつも低下基調となりました。2024年1月前半には能登半島地震の発生からマイナス金利解除の先送り観測が強まり金利は低下しましたが、その後は米金利の上昇を受けて上昇に転じ、1月下旬には植田日銀総裁の会見などから早期のマイナス金利解除観測が強まったことを背景に急上昇しました。3月には日銀金融政策決定会合においてマイナス金利が解除されたものの、日銀の緩やかな金融政策継続の姿勢が示され金利は低下に転じました。4月以降は植田日銀総裁の追加利上げに前向きな発言を受けて金利は上昇基調となりました。

6月には海外金利の低下などから低下圧力が強まる場面もありましたが、為替が円安基調を強める中、金利は上昇傾向となりました。その後、金利はもみ合い推移となりましたが、7月末の日銀金融政策決定会合において追加利上げが決定されたことをきっかけに急激な円高と株式市場の下落が進行し、8月上旬には急低下しました。9月に入ると米経済指標の不振から米利下げ観測が高まり国内金利も低下しましたが、10月以降は堅調な米雇用統計を受けて米金利が上昇したことや衆院選における与党の過半数割れから財政拡張への警戒感が強まったことなどから上昇基調となり、期初を上回る水準で当期末を迎えました。

## ポートフォリオ

### ■当ファンド

マザーファンド受益証券の組入比率を高位に保った運用を行いました（ただし、当ファンドから信託報酬等の費用を控除する関係などから、当ファンドの収益率はマザーファンドとは必ずしも一致しません）。

### ■マザーファンド

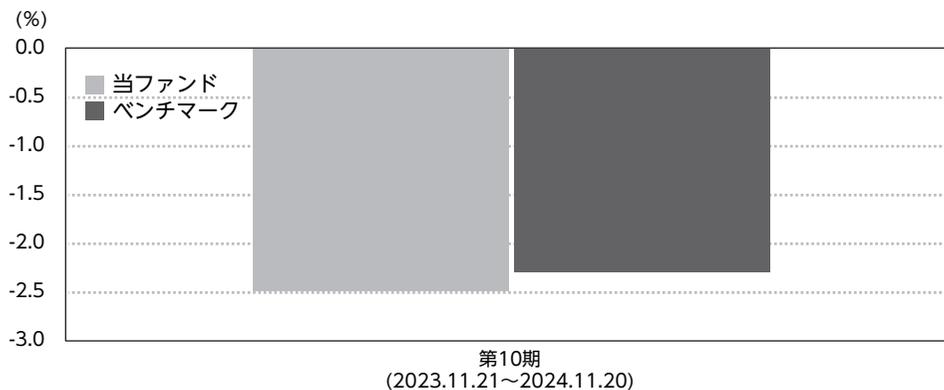
ニッセイアセットマネジメント株式会社と株式会社ニッセイ基礎研究所が共同開発したクオンツモデルを利用して、ポートフォリオのデュレーション、残存期間別構成比（短期・中期・長期・超長期の構成比）等を調整し、ベンチマークの動きに連動する投資成果を目標に運用を行いました。

当期も上記クオンツモデルに基づき、ポートフォリオのデュレーション、残存期間別構成比がベンチマークに対しおおむね中立となるよう、適宜売買を実施しました。

(注) デュレーションとは、債券投資におけるリスク度合いを表す主要な指標の一つで、金利変動に対する債券価格の反応の大きさ（リスクの大きさ）を表します。デュレーションが長いほど、金利変動に対する債券価格の反応は大きくなります。

\* ベンチマークはNOMURA-BPI総合です。ベンチマークの詳細につきましては、後掲の「指数に関して」をご参照ください。

## ベンチマークとの差異



当期の税引前分配金再投資基準価額騰落率は-2.5%となり、ベンチマーク騰落率（-2.3%）にほぼ連動しました。

(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

## 分配金

当期の分配金は、基準価額水準、市況動向等を勘案した結果、見送らせていただきました。  
 なお、分配に充てずに信託財産に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

### 【分配原資の内訳（1万口当たり）】

項目	当期
	2023年11月21日～2024年11月20日
当期分配金(税引前)	—
対基準価額比率	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	762円

(注1) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切り捨てで算出しているため、合計が当期分配金と一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 今後の運用方針

### ■当ファンド

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に国内の公社債に投資することにより、ベンチマークの動きに連動する投資成果を目標に運用を行います。

### ■マザーファンド

引き続き、クオンツモデルに基づき、ベンチマークの動きに連動する投資成果を目標に運用を行います。

# ファンドデータ

## 当ファンドの組入資産の内容

### ■組入ファンド

	第10期末 2024年11月20日
ニッセイ国内債券インデックス マザーファンド	100.0%

(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入全ファンドを記載しています。

### ■純資産等

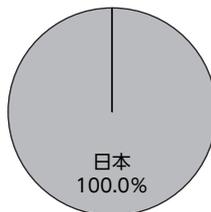
項目	第10期末 2024年11月20日
純資産総額	7,446,507,578円
受益権総口数	7,732,529,134口
1万口当たり基準価額	9,630円

(注) 当期間中における追加設定元本額は2,674,930,592円、同解約元本額は3,427,954,579円です。

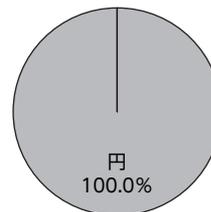
### ■資産別配分



### ■国別配分



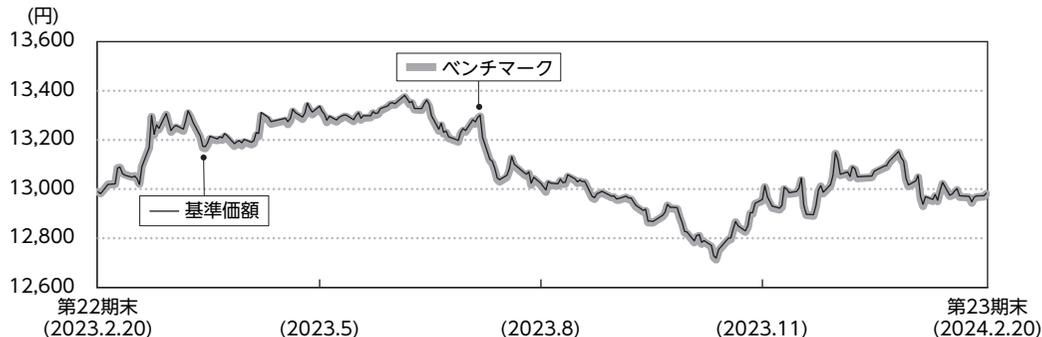
### ■通貨別配分



(注) 資産別・国別・通貨別配分は、2024年11月20日現在のものであり、比率は純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

## ニッセイ国内債券インデックスマザーファンドの概要

### ■ 基準価額の推移



(注) ベンチマークは前期末の基準価額にあわせて再指数化しています。

### ■ 上位銘柄

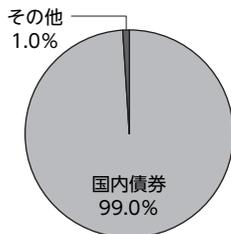
銘柄名	通貨	比率
第358回 利付国債 (10年)	円	7.5%
第350回 利付国債 (10年)	円	7.5
第134回 利付国債 (20年)	円	7.5
第160回 利付国債 (20年)	円	6.6
第158回 利付国債 (5年)	円	6.1
第452回 利付国債 (2年)	円	5.9
第148回 利付国債 (20年)	円	5.6
第176回 利付国債 (20年)	円	5.3
第 46 回 利付国債 (30年)	円	5.0
第 90 回 利付国債 (20年)	円	4.9
組入銘柄数		36

### ■ 1万口当たりの費用明細

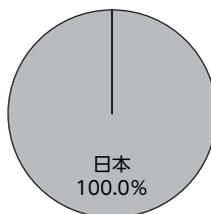
2023.2.21~2024.2.20

項目	金額
その他費用 (その他)	0円 (0)
合計	0

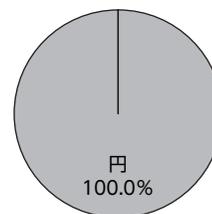
### ■ 資産別配分



### ■ 国別配分



### ■ 通貨別配分



(注1) 基準価額の推移および1万口当たりの費用明細は、マザーファンドの直近の決算期のものであり、費用項目の金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。項目の詳細につきましては、前掲の費用項目の概要をご参照ください。

(注2) 上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分は、マザーファンド決算日 (2024年2月20日現在) のものであり、比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。なお、国別配分はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

(注3) 全銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書 (全体版) の組入有価証券明細表をご参照ください。

### 最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	税引前 分配金	期中 騰落率	(ご参考)	ベンチ マーク	期中 騰落率	債券 組入比率	純資産 総額
				基準価額+ 累計分配金				
	円	円	%	円		%	%	百万円
6期(2020年11月20日)	10,511	0	△1.2	10,511	10,629	△1.0	99.2	8,182
7期(2021年11月22日)	10,474	0	△0.4	10,474	10,612	△0.2	99.4	8,563
8期(2022年11月21日)	10,078	0	△3.8	10,078	10,226	△3.6	99.4	8,373
9期(2023年11月20日)	9,875	0	△2.0	9,875	10,027	△1.9	99.3	8,379
10期(2024年11月20日)	9,630	0	△2.5	9,630	9,798	△2.3	99.3	7,446

(注1) 基準価額の騰落率は分配金(税引前)込みです。

(注2) 「基準価額+累計分配金」は、当該決算期の基準価額(分配落)に当該決算期以前の税引前分配金の累計額を加えたものです。

(注3) ベンチマークは設定時を10,000として指数化しています。

(注4) 当ファンドはマザーファンドを組み入れるため、「債券組入比率」は実質比率を記載しています。以下同じです。

### 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率	ベンチ マーク	騰落率	債券
					組入比率
	円	%		%	%
(期首)2023年11月20日	9,875	—	10,027	—	99.3
11月末	9,905	0.3	10,056	0.3	99.1
12月末	9,943	0.7	10,098	0.7	99.2
2024年1月末	9,869	△0.1	10,025	△0.0	99.4
2月末	9,899	0.2	10,057	0.3	99.0
3月末	9,887	0.1	10,046	0.2	99.5
4月末	9,771	△1.1	9,932	△0.9	99.1
5月末	9,615	△2.6	9,773	△2.5	99.3
6月末	9,639	△2.4	9,800	△2.3	99.0
7月末	9,628	△2.5	9,790	△2.4	99.2
8月末	9,739	△1.4	9,904	△1.2	98.9
9月末	9,764	△1.1	9,932	△0.9	99.3
10月末	9,713	△1.6	9,882	△1.4	99.0
(期末)2024年11月20日	9,630	△2.5	9,798	△2.3	99.3

(注) 期末基準価額は分配金(税引前)込み、騰落率は期首比です。

**親投資信託受益証券の設定、解約状況**

2023年11月21日～2024年11月20日

	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
	千口	千円	千口	千円
ニッセイ国内債券インデックスマザーファンド	2,037,131	2,619,342	2,618,857	3,371,084

(注) 単位未満は切り捨てています。

**利害関係人との取引状況等**

2023年11月21日～2024年11月20日

当期における利害関係人との取引はありません。

**親投資信託残高**

2024年11月20日現在

種類	期首(前期末)	当期末	
	口数	口数	評価額
	千口	千口	千円
ニッセイ国内債券インデックスマザーファンド	6,466,454	5,884,727	7,446,534

(注1) 単位未満は切り捨てています。

(注2) 当期末におけるニッセイ国内債券インデックスマザーファンド全体の口数は66,338,834千口です。

**投資信託財産の構成**

2024年11月20日現在

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
ニッセイ国内債券インデックスマザーファンド	7,446,534	99.6
コール・ローン等、その他	27,898	0.4
投資信託財産総額	7,474,432	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

<購入・換金手数料なし>ニッセイ国内債券インデックスファンド

### 資産、負債、元本および基準価額の状況

(2024年11月20日現在)

項目	当期末
<b>(A)資産</b>	<b>7,474,432,548円</b>
コール・ローン等	4,871,771
ニッセイ国内債券インデックス マザーファンド(評価額)	7,446,534,502
未収入金	23,026,275
<b>(B)負債</b>	<b>27,924,970</b>
未払解約金	22,890,716
未払信託報酬	4,992,740
その他未払費用	41,514
<b>(C)純資産総額(A-B)</b>	<b>7,446,507,578</b>
元本	7,732,529,134
次期繰越損益金	△ 286,021,556
<b>(D)受益権総口数</b>	<b>7,732,529,134口</b>
1万口当たり基準価額(C/D)	<b>9,630円</b>

- (注1) 期首元本額 8,485,553,121円  
 期中追加設定元本額 2,674,930,592円  
 期中一部解約元本額 3,427,954,579円
- (注2) 元本の欠損  
 純資産総額は元本額を下回っており、その差額は286,021,556円です。

### 損益の状況

当期(2023年11月21日~2024年11月20日)

項目	当期
<b>(A)配当等収益</b>	<b>2,468円</b>
受取利息	2,501
支払利息	△ 33
<b>(B)有価証券売買損益</b>	<b>△158,169,026</b>
売買益	32,801,706
売買損	△190,970,732
<b>(C)信託報酬等</b>	<b>△10,355,852</b>
<b>(D)当期損益金(A+B+C)</b>	<b>△168,522,410</b>
<b>(E)前期繰越損益金</b>	<b>△235,466,124</b>
(分配準備積立金)	(108,716,494)
(繰越欠損金)	(△344,182,618)
<b>(F)追加信託差損益金*</b>	<b>117,966,978</b>
(配当等相当額)	(431,555,644)
(売買損益相当額)	(△313,588,666)
<b>(G)合計(D+E+F)</b>	<b>△286,021,556</b>
<b>次期繰越損益金(G)</b>	<b>△286,021,556</b>
追加信託差損益金	117,966,978
(配当等相当額)	(433,077,419)
(売買損益相当額)	(△315,110,441)
分配準備積立金	156,626,794
繰越欠損金	△560,615,328

- (注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによる損益を含みます。
- (注2) (C)信託報酬等は、信託報酬に対する消費税等相当額を含みます。
- (注3) (E)前期繰越損益金とは、分配準備積立金と繰越欠損金の合計で、前期末の金額に、期中一部解約により変動した金額を調整して算出しています。
- (注4) (F)追加信託差損益金\*とは、追加設定をした価額と元本との差額をいい、配当等相当額と売買損益相当額に区分します。前期末の金額に、期中追加設定および一部解約により変動した金額を調整して算出しています。

### 分配金の計算過程

項目	当期
(a) 経費控除後の配当等収益	47,910,300円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0円
(c) 信託約款に定める収益調整金	433,077,419円
(d) 信託約款に定める分配準備積立金	108,716,494円
(e) 分配対象額(a+b+c+d)	589,704,213円
(f) 分配対象額(1万口当たり)	762.63円
(g) 分配金	0円
(h) 分配金(1万口当たり)	0円

## 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／国内／債券／インデックス型	
信 託 期 間	無期限	
運 用 方 針	ニッセイ国内債券インデックスマザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に国内の公社債に投資することにより、NOMURA-BPI総合の動きに連動する投資成果を目標に運用を行います。	
主要運用対象	<購入・換金手数料なし> ニッセイ国内債券 インデックスファンド	ニッセイ国内債券インデックスマザーファンド受益証券
	ニッセイ国内債券 インデックス マザーファンド	国内の公社債
運用方法	<購入・換金手数料なし> ニッセイ国内債券 インデックスファンド	以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・株式への投資は転換社債の転換および新株予約権の行使による取得に限るものとし、投資割合は信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ・投資対象資産は、国内の通貨建またはユーロ円建表示であるものに限りません。
	ニッセイ国内債券 インデックス マザーファンド	以下の様な投資制限のもと運用を行います。 ・投資対象資産は、国内の通貨建またはユーロ円建表示であるものに限りません。
分 配 方 針	毎決算時に、原則として経費控除後の配当等収益および売買益等の全額を対象として、基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。	

# ニッセイ国内債券インデックス マザーファンド

## 運用報告書

### 第 23 期

(計算期間：2023年2月21日～2024年2月20日)

#### 運用方針

- ① 国内の公社債に投資し、NOMURA-BPI総合の動きに連動する投資成果を目標に運用を行います。
- ② 原則として、ニッセイアセットマネジメント株式会社と株式会社ニッセイ基礎研究所が共同開発したクオンツモデルを利用し、ポートフォリオを構築します。

#### 主要運用 対象

国内の公社債

#### 運用方法

以下の様な投資制限のもと運用を行います。  
・投資対象資産は、国内の通貨建またはユーロ円建表示であるものに限りま



ニッセイアセットマネジメント株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-6

# 運用経過

2023年2月21日～2024年2月20日

## 国内債券市況



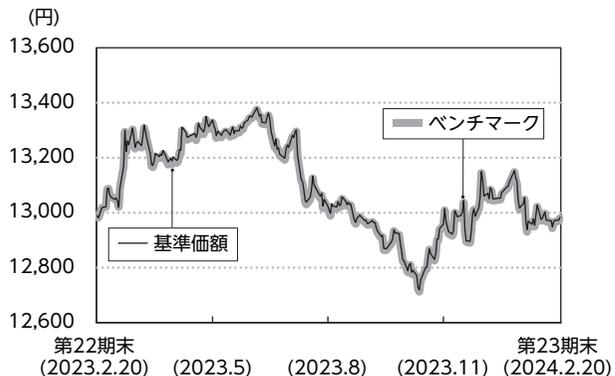
(注) ブルームバーグのデータを使用しています。

10年国債金利は期を通じて見ると上昇しました。

期初以降、おおむね横ばいで推移した後、2023年3月中旬に日銀が金融緩和の現状維持を改めて示したことから金利は低下しました。4月下旬の日銀金融政策決定会合において金融政策の現状維持が発表されたことで6月末まで緩やかに低下しましたが、7月に入ると内田日銀副総裁のインタビューや日銀の物価上昇率の見通し引き上げ報道等から金融政策の修正観測が高まり金利は大きく上昇し、その後も米金利の上昇を受けて上昇基調で推移しました。

9月上旬には植田日銀総裁のインタビューをきっかけに金融政策の修正観測が強まり、金利は上昇基調となりましたが、11月に入ると米金融引き締め長期化観測が後退したことなどを背景に金利は低下しました。2024年1月中旬以降は、堅調な米経済指標や米連邦準備制度理事会（FRB）高官の早期利下げ期待をけん制する発言などにより米金利が上昇する中、国内金利も上昇基調となり、期初を上回る水準で当期末を迎えました。

## 基準価額等の推移



(注) ベンチマークは前期末の基準価額にあわせて再指数化しています。

### ■基準価額の主な変動要因

#### <上昇要因>

- ・ 2023年3月中旬から下旬にかけて、日銀が金融緩和の現状維持を改めて示したことから金利が低下（債券価格は上昇）したこと
- ・ 11月初旬から2024年1月中旬にかけて、米金融引き締め長期化観測が後退したことなどを背景に金利が低下したこと

#### <下落要因>

- ・ 7月から10月末にかけて、日銀による金融政策の修正観測が高まったことや米金利の上昇を受けて金利が上昇基調となったこと

## ポートフォリオ

ニッセイアセットマネジメント株式会社と株式会社ニッセイ基礎研究所が共同開発したクオンツモデルを利用して、ポートフォリオのデュレーション、残存期間別構成比等を調整し、ベンチマークの動きに連動する投資成果を目標に運用を行いました。

当期も上記クオンツモデルに基づき、ポートフォリオのデュレーション、残存期間別構成比（短期・中期・長期・超長期別の構成比）がベンチマークに対しおおむね中立となるよう、適宜売買を実施しました。

(注) デュレーションとは、債券投資におけるリスク度合いを表す主要な指標の一つで、金利変動に対する債券価格の反応の大きさ（リスクの大きさ）を表します。デュレーションが長いほど、金利変動に対する債券価格の反応は大きくなります。

## ベンチマークとの差異

当期の基準価額騰落率は-0.0%となり、ベンチマーク騰落率（-0.1%）にほぼ連動しました。

## 今後の運用方針

引き続き、クオンツモデルに基づき、ベンチマークの動きに連動する投資成果を目標に運用を行います。

## 最近5期の運用実績

決算期	基準価額	期中騰落率	ベンチマーク	期中騰落率	債券組入比率	純資産総額
19期(2020年2月20日)	13,877	1.1	13,894	1.2	99.2	41,491
20期(2021年2月22日)	13,621	△1.8	13,642	△1.8	99.2	47,767
21期(2022年2月21日)	13,505	△0.9	13,536	△0.8	99.2	55,653
22期(2023年2月20日)	12,989	△3.8	13,021	△3.8	99.2	60,362
23期(2024年2月20日)	12,983	△0.0	13,012	△0.1	99.0	74,084

(注) ベンチマークは設定時を10,000として指数化しています。

## 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率	ベンチマーク	騰落率	債券組入比率
(期首)2023年2月20日	12,989	—	13,021	—	99.2
2月末	13,086	0.7	13,117	0.7	99.1
3月末	13,271	2.2	13,301	2.2	99.5
4月末	13,311	2.5	13,331	2.4	99.6
5月末	13,297	2.4	13,319	2.3	99.0
6月末	13,328	2.6	13,356	2.6	99.0
7月末	13,121	1.0	13,148	1.0	99.4
8月末	13,028	0.3	13,053	0.2	99.2
9月末	12,934	△0.4	12,960	△0.5	99.2
10月末	12,728	△2.0	12,753	△2.1	99.4
11月末	12,999	0.1	13,022	0.0	99.1
12月末	13,050	0.5	13,075	0.4	99.2
2024年1月末	12,954	△0.3	12,982	△0.3	99.4
(期末)2024年2月20日	12,983	△0.0	13,012	△0.1	99.0

(注) 騰落率は期首比です。

## 1万口当たりの費用明細

2023年2月21日～2024年2月20日

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
その他費用 (その他)	0円 (0)	0.000% (0.000)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 ・ 信託事務の諸費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用 ・ 借入金の利息：受託会社等から一時的に資金を借り入れた場合（立替金も含む）に発生する利息
合計	0	0.000	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額（13,096円）で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

## 売買および取引の状況

2023年2月21日～2024年2月20日

## 公社債

		買付額	売付額
		千円	千円
国内	国債証券	69,130,529	54,971,446

(注1) 金額は受渡代金です（経過利子分は含まれていません）。

(注2) 金額の単位未満は切り捨てています。ただし、金額が単位未満の場合は、小数で記載しています。

## 主要な売買銘柄

2023年2月21日～2024年2月20日

## 公社債

買付		売付	
銘柄	金額	銘柄	金額
千円		千円	
第358回 利付国債 (10年)	5,097,183	第362回 利付国債 (10年)	5,024,624
第134回 利付国債 (20年)	5,061,484	第338回 利付国債 (10年)	4,813,084
第350回 利付国債 (10年)	4,582,138	第354回 利付国債 (10年)	4,093,290
第158回 利付国債 (5年)	4,544,301	第342回 利付国債 (10年)	4,075,996
第452回 利付国債 (2年)	4,352,781	第143回 利付国債 (20年)	3,297,024
第148回 利付国債 (20年)	4,210,849	第94回 利付国債 (20年)	3,263,648
第338回 利付国債 (10年)	4,163,800	第346回 利付国債 (10年)	3,113,432
第342回 利付国債 (10年)	3,674,714	第340回 利付国債 (10年)	2,911,772
第90回 利付国債 (20年)	3,626,047	第335回 利付国債 (10年)	2,787,796
第366回 利付国債 (10年)	3,601,071	第152回 利付国債 (20年)	2,718,995

(注1) 金額は受渡代金です（経過利子分は含まれていません）。

(注2) 金額の単位未満は切り捨てています。

## 組入有価証券明細表

2024年2月20日現在

## 国内（邦貨建）公社債

区分	当期末						
	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国債証券	73,776,000 (29,210,000)	73,373,274 (27,192,788)	99.0 (36.7)	–	62.8 (24.5)	25.5 ( 6.3)	10.7 ( 5.9)
合計	73,776,000 (29,210,000)	73,373,274 (27,192,788)	99.0 (36.7)	–	62.8 (24.5)	25.5 ( 6.3)	10.7 ( 5.9)

- (注1) 評価については、原則として証券会社、価格情報会社等よりデータを入手しています。ただし、残存期間1年以内の公社債については、償却原価法により評価しています。以下同じです。
- (注2) ( )内は非上場債であり、上段の数字の内訳です。
- (注3) 組入比率は、当期末の純資産総額に対する評価額の比率です。
- (注4) 額面金額および評価額の単位未満は切り捨てています。ただし、額面金額および評価額が単位未満の場合は、小数で記載しています。以下同じです。

## (国内公社債の内訳)

債券種別	銘柄名	利率	償還年月日	額面金額	評価額
		%		千円	千円
国債証券	第450回 利付国債（2年）	0.0050	2025/7/1	12,000	11,992
	第452回 利付国債（2年）	0.0050	2025/9/1	4,353,000	4,347,689
	第143回 利付国債（5年）	0.1000	2025/3/20	10,000	10,010
	第151回 利付国債（5年）	0.0050	2027/3/20	119,000	118,471
	第158回 利付国債（5年）	0.1000	2028/3/20	4,552,000	4,523,550
	第4回 利付国債（40年）	2.2000	2051/3/20	2,248,000	2,502,788
	第8回 利付国債（40年）	1.4000	2055/3/20	358,000	329,789
	第12回 利付国債（40年）	0.5000	2059/3/20	1,344,000	902,375
	第16回 利付国債（40年）	1.3000	2063/3/20	72,000	61,621
	第338回 利付国債（10年）	0.4000	2025/3/20	592,000	594,510
	第340回 利付国債（10年）	0.4000	2025/9/20	2,959,000	2,973,913
	第342回 利付国債（10年）	0.1000	2026/3/20	1,179,000	1,178,386
	第344回 利付国債（10年）	0.1000	2026/9/20	1,523,000	1,521,629
	第346回 利付国債（10年）	0.1000	2027/3/20	2,396,000	2,391,950
	第350回 利付国債（10年）	0.1000	2028/3/20	5,562,000	5,527,237
	第354回 利付国債（10年）	0.1000	2029/3/20	1,271,000	1,255,150
	第358回 利付国債（10年）	0.1000	2030/3/20	5,637,000	5,541,621
	第362回 利付国債（10年）	0.1000	2031/3/20	117,000	114,075

## ニッセイ国内債券インデックスマザーファンド

債券種別	銘柄名	利率	償還年月日	額面金額	評価額
国債証券		%		千円	千円
	第366回 利付国債 (10年)	0.2000	2032/3/20	3,703,000	3,597,242
	第14回 利付国債 (30年)	2.4000	2034/3/20	121,000	140,422
	第30回 利付国債 (30年)	2.3000	2039/3/20	882,000	1,020,165
	第34回 利付国債 (30年)	2.2000	2041/3/20	1,127,000	1,278,547
	第38回 利付国債 (30年)	1.8000	2043/3/20	260,000	276,486
	第46回 利付国債 (30年)	1.5000	2045/3/20	3,678,000	3,669,172
	第70回 利付国債 (30年)	0.7000	2051/3/20	3,548,000	2,794,333
	第90回 利付国債 (20年)	2.2000	2026/9/20	3,423,000	3,604,590
	第94回 利付国債 (20年)	2.1000	2027/3/20	10,000	10,598
	第117回 利付国債 (20年)	2.1000	2030/3/20	1,435,000	1,582,934
	第125回 利付国債 (20年)	2.2000	2031/3/20	124,000	139,018
	第134回 利付国債 (20年)	1.8000	2032/3/20	5,034,000	5,524,714
	第136回 利付国債 (20年)	1.6000	2032/3/20	18,000	19,468
	第143回 利付国債 (20年)	1.6000	2033/3/20	1,166,000	1,263,069
	第148回 利付国債 (20年)	1.5000	2034/3/20	3,859,000	4,141,710
	第152回 利付国債 (20年)	1.2000	2035/3/20	1,561,000	1,622,035
	第160回 利付国債 (20年)	0.7000	2037/3/20	5,051,000	4,867,345
第176回 利付国債 (20年)	0.5000	2041/3/20	4,472,000	3,914,654	
合計		-	-	73,776,000	73,373,274

### 投資信託財産の構成

2024年2月20日現在

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
公社債	73,373,274	98.9
コール・ローン等、その他	849,705	1.1
投資信託財産総額	74,222,979	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

## ニッセイ国内債券インデックスマザーファンド

### 資産、負債、元本および基準価額の状況

(2024年2月20日現在)

項目	当期末
<b>(A)資産</b>	<b>74,222,979,746円</b>
コール・ローン等	601,916,141
公社債(評価額)	73,373,274,540
未収利息	205,600,679
前払費用	42,188,386
<b>(B)負債</b>	<b>138,935,464</b>
未払解約金	138,934,870
その他未払費用	594
<b>(C)純資産総額(A-B)</b>	<b>74,084,044,282</b>
元本	57,063,526,944
次期繰越損益金	17,020,517,338
<b>(D)受益権総口数</b>	<b>57,063,526,944口</b>
<b>1万口当たり基準価額(C/D)</b>	<b>12,983円</b>

(注1) 期首元本額 46,473,690,789円  
 期中追加設定元本額 19,576,606,624円  
 期中一部解約元本額 8,986,770,469円

(注2) 当マザーファンドの当期末元本額におけるベビーファンド別内訳は、次の通りです。

ニッセイ国内債券インデックス S A (適格機関投資家限定) 1,665,913,549円  
 DCニッセイ国内債券インデックス 7,803,434,563円  
 ニッセイ日本バランス(成長型) S A (適格機関投資家限定) 3,819,401円  
 DCニッセイワールドセレクトファンド(債券重視型) 10,389,190,115円  
 DCニッセイワールドセレクトファンド(標準型) 16,972,467,342円  
 DCニッセイワールドセレクトファンド(株式重視型) 5,418,434,867円  
 ニッセイインデックスバランス(債券重視型) S A (適格機関投資家限定) 14,830,361円  
 ニッセイインデックスバランス(標準型) S A (適格機関投資家限定) 8,468,515円  
 ニッセイインデックスバランス(成長型) S A (適格機関投資家限定) 12,138,433円  
 <購入・換金手数料なし>ニッセイ国内債券インデックスファンド 6,175,072,567円  
 <購入・換金手数料なし>ニッセイ・インデックスバランスファンド(4資産均等型) 8,579,454,243円  
 ニッセイ日経225高値参照型アロケーションファンド 19,401,564円  
 ニッセイ国内3資産高値参照型バランスファンド(安定型) 552,931円  
 ニッセイ国内3資産高値参照型バランスファンド(積極型) 348,493円

### 損益の状況

当期(2023年2月21日~2024年2月20日)

項目	当期
<b>(A)配当等収益</b>	<b>504,649,607円</b>
受取利息	504,887,771
支払利息	△ 238,164
<b>(B)有価証券売買損益</b>	<b>△ 655,950,380</b>
売買益	213,358,435
売買損	△ 869,308,815
<b>(C)信託報酬等</b>	<b>△ 10,933</b>
<b>(D)当期損益金(A+B+C)</b>	<b>△ 151,311,706</b>
<b>(E)前期繰越損益金</b>	<b>13,888,779,116</b>
<b>(F)追加信託差損益金</b>	<b>6,049,732,059</b>
<b>(G)解約差損益金</b>	<b>△ 2,766,682,131</b>
<b>(H)合計(D+E+F+G)</b>	<b>17,020,517,338</b>
<b>次期繰越損益金(H)</b>	<b>17,020,517,338</b>

(注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによる損益を含みます。

(注2) (F)追加信託差損益金とは、追加設定をした価額と元本との差額をいい、元本を上回る場合は利益として、下回る場合は損失として処理されます。

(注3) (G)解約差損益金とは、一部解約をした価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

## 指数に関して

### ■ ファンドのベンチマーク等について

#### ・ NOMURA-BPI 総合

NOMURA-BPI 総合は、日本国内で発行される公募債券流通市場全体の動向を的確に表すために、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社によって計算、公表されている投資収益指数であり、その知的財産は同社に帰属します。なお、同社は、当ファンドの運用成果等に関し、一切の責任を負うものではありません。